

お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド (円ヘッジあり)

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第2期(決算日2021年9月10日)

作成対象期間(2020年9月11日～2021年9月10日)

第2期末(2021年9月10日)	
基準価額	12,015円
純資産総額	6,392百万円
第2期	
騰落率	16.2%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。
- 右記弊社ホームページの「THEO投信をご利用のお客様」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド(円ヘッジあり)」は、このたび第2期の決算を行いました。当ファンドは、主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ、長期的に安定した収益の確保と投資信託証券財産の成長を目指して運用を行います。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

お金のデザイン

東京都港区赤坂1丁目9番13号

<照会先>

電話番号：03-6629-7090

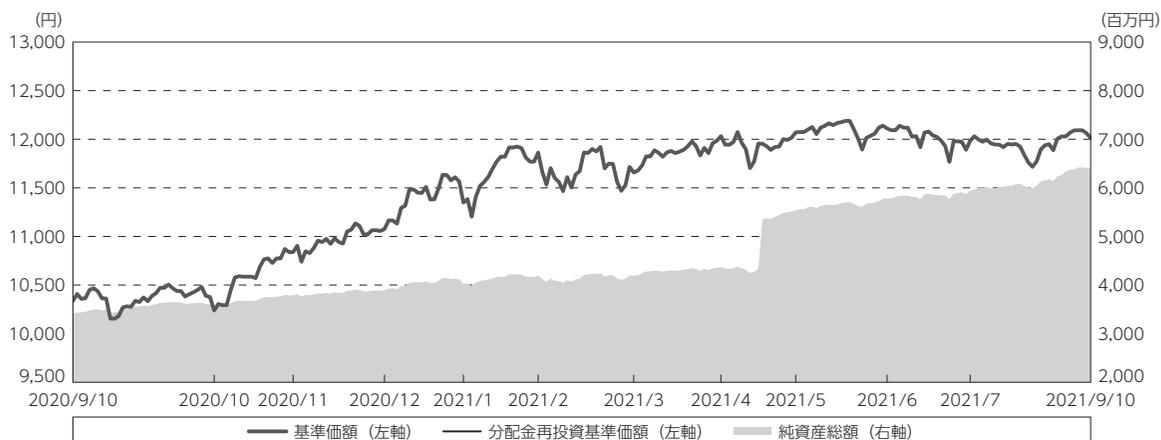
(受付時間：委託会社の営業日の9：30～17：00)

ホームページ：<https://www.money-design.com/>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2020年9月11日～2021年9月10日)



期 首：10,337円

期 末：12,015円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：16.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2020年9月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示していません。

○基準価額の主な変動要因

DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ (以下「DBi ポートフォリオ」) は、当期(2020年9月11日～2021年9月10日)手数料控除後で+16.55%のリターンをあげました。為替ヘッジ控除前の米ドルベースのパフォーマンスは、+17.29%となりました。

一方、同期間におけるHFRXグローバル・ヘッジファンド・インデックスの米ドルベースのパフォーマンスは、+9.78%でした。

1万口当たりの費用明細

(2020年9月11日～2021年9月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	76	0.660	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(69)	(0.605)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(4)	(0.033)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	11	0.093	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.013)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(9)	(0.080)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	87	0.753	
期中の平均基準価額は、11,458円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

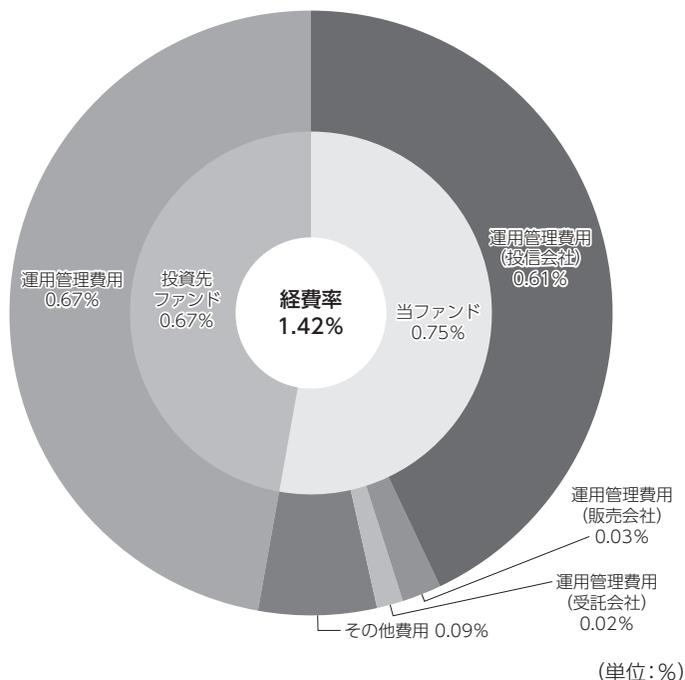
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.42%です。



経費率 (①+②)	1.42
①当ファンドの費用の比率	0.75
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.67

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年9月12日～2021年9月10日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 当ファンドの設定日は2020年6月19日です。

	2020年6月19日 設定日	2020年9月10日 決算日	2021年9月10日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,337	12,015
期間分配金合計(税込み) (円)	-	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	3.4	16.2
純資産総額 (百万円)	0.1	3,408	6,392

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。ただし、単位未満の場合は小数で記載しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年9月10日の騰落率は設定当初との比較です。

(注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

投資環境

(2020年9月11日～2021年9月10日)

パンデミックが始まって以降、ヘッジファンドにとっては、刺激的で、時には挑戦的な時期が続きました。プラス面では、ヘッジファンドは2020年半ばの新型コロナウイルスのワクチン接種拡大に伴う景気回復を正しく予測し、昨年秋に始まったバリューストックへのローテーションを取り込みました。一方、市場を寡占している情報技術巨人の中核保有株は、市場全体を大幅に上回りました。これらのファクター・ローテーションはアルファを提供しましたが、2000年の小型株へのローテーションあるいはその数年後の新興市場へのローテーションほど極端ではありませんでした。年末までに、多くのヘッジファンドが早期にインフレ・トレードに取組み、2021年初頭の金利上昇時、利益を上げました。長期的な視点から見ると、10年間厳格に市場が管理された後、金利、相対的評価、金融政策および市場基準に関する仮定においてレジーム転換が起こっています。そしてこの種の環境は洗練され制約のないヘッジファンドにとって非常に有利になります。特に、マネージド・フューチャーズなどのいくつかの戦略は、市場センチメントの変化から恩恵を受けました。それは投資家が最初に現在の市場コンセンサスに固執する傾向があり、次に、新しい取引を積み上げ、公正価値を超えて価格を押し上げるからです。「ヘッジファンドのアルファの復活」とともに資金流入が急増しており、ヘッジファンドが現在どのように実行可能な債券代替投資と見なされているかについて私たちは述べてきました。

市場が大幅に拡大しているにもかかわらず、水面下での急激なローテーションにより、いくつかのヘッジファンドは足を踏み外し、厳しい状態となっています。バリューストックへのローテーションは、小型株や新興市場株のようなバリューストック重視ファクターのアウトパフォーマンスにつながり、デルタ株感染拡大による景気減速懸念により、グロースに対して急激なリバーサルが見られました。同じ理由で、米国債のインフレ・トレードは、米国連邦準備制度理事会（FRB）の市場をなだめるような発言によって、予想以上に巻き戻され、中でも空売りは地雷原の様相となり、Reddit（米国オンライン掲示板）をフォローする個人投資家の大群が突発的にミーム株を積み上げたことで、いくつかの大幅にショートした株が10倍以上急上昇しました。一部のグローバル・ヘッジファンドが長い間関心を持っていた中国のハイテク株は、中国政府の取り締まりが強化されたため、衝撃的な損失が発生しました。

昨年は、ヘッジファンド戦略全体や各戦略のマネージャーの分散投資および左ファットテール・リスクの回避の重要性が強く認識された年となりました。過去1、2年は、「不可能」は可能であるだけでなく、見込みもあることを強調しました。私たちの誰もが経済状態や市場が、今後数年間どのように進展するかを正確に予測することはできません。今日の幅広いコンセンサスは、歴史的な基準では株式市場は非常に割高ですが、依然として経済的および金融的追い風がある一方、伝統的債券市場はわずかなリターンを生み出すために綱渡りを行っている状態です。伝統的な株式60%債券40%のポートフォリオは、今後10年間1桁台下位の収益率に苦しむと予測する人もいます。今日のコンセンサスが2年後のコンセンサスになることはめったにないため、市場の状況が変化するにつれて、制約のないヘッジファンドによって実行される柔軟性が適用されることになるでしょう。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年9月11日～2021年9月10日)

この投資信託は、主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ長期的に安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。主要投資ファンドであるDBiポートフォリオの詳細は以下になります。

ヘッジファンド・ポートフォリオ (DBiポートフォリオの約60%を構成)

ヘッジファンド・ポートフォリオは、当期+20.92%のリターンをあげました。HFRXグローバル・ヘッジファンド・インデックスの+9.78%のリターンを大きく上回りました。

ヘッジファンド・ポートフォリオに使用されるレプリケーション・モデルは、株式ロング/ショート、レバティブ・バリュー、およびイベント・ドリブンの上位50社の最大手ヘッジファンドから構成されるターゲット・ファンドを対象に、株式、金利、通貨市場全体でのこれらのファンドのウェイトを利用し、コア・ファクターを抽出するように設計されています。DBiの付加価値は、通常、手数料控除前のリターンの80%以上はファクターのウェイトから得られ、残りは個々の証券選択と非流動性プレミアムから得られます。個別マネージャーの運用結果のばらつきが大きいこともパフォーマンスに影響を与える可能性があります。2020年11月においては、個別マネージャー間の分散が32%を超えていました。

流動性危機と市場下降の期間、取引が集中している株式と非流動性資産は予期せぬ大幅下落を被る可能性があります。したがって、ヘッジファンドの「アルファ」のいくつかの形式は、実際にはマイナスになる可能性があり、その間、レプリケーションはパフォーマンスを大幅に上回る可能性があります。したがって、市場サイクルを通じて、レプリケーションはパフォーマンスを上回る傾向があり、これは主に、より低いフィーと損失緩和によってもたらされます。このポートフォリオの場合、統計的近似手法の性質により、時間の経過とともに取得される手数料控除前のパフォーマンスにばらつきがあると予想しています。そしてこれまでの運用結果は、そのような期待の上限に位置しています。

CTAポートフォリオ (DBiポートフォリオの約40%を構成)

CTAポートフォリオは、当期+11.64%のリターンをあげました。比較対象のSG CTAヘッジファンド・インデックスは+12.40%のリターンでした。

ヘッジファンド・ポートフォリオに使用されるモデルと比較して、マネージド・フューチャーズ・ヘッジファンド (CTA) の複製は、2つの点でより大がかりなものです。まず、マネージド・フューチャーズ・ファンドはすべてのリターンをファクターウェイトの調整から得ています。個別銘柄株式にも流動性の低い資産にも投資していません。このため、手数料控除前のパフォーマンスの100%を複製することが目標となります。さらに、当社の調査によると、マネージド・フューチャーズのヘッジファンドは、過度の取引コストが発生し、パフォーマンスを低下させる要因になっています。ファクターの選択と取引頻度を注意深く管理することによって、私たちは取引コストを可能な限り低く抑えるよう努めています。これらの対策によって、長期にわたり手数料控除後で300~400bpsの超過リターンを目指しています。重要なのは、上位20社のファンドを複製することにより、CTAポートフォリオは、単一マネージャーの「左ファットテール」リスクを軽減しようとしています。上述のように、ローリング期間中のパフォーマンス、およびポートフォリオの絶対的なパフォーマンスには満足していますが、過去1年間のベンチマークと比較して、わずかなパフォーマンスの劣位は、期待の下限にあります。

インフレリスクが高まるにつれ、CTAポートフォリオは金や商品などの従来のインフレヘッジに変わりました。驚くべきことに、2020年の衝撃的な価格崩壊の後、当期中に原油は80%以上上昇し、ロングポジションがパフォーマンスに貢献しました。興味深いことに、金のパフォーマンスは低調でしたが、おそらく暗号通貨への関心の熱狂によるものでしょう。CTAポートフォリオはまた、米国長期国債のポジションをうまくショートに転換し、金利が上昇するにつれて利益をもたらしました。対照的に、通貨市場での小幅の上下動がパフォーマンスを後退させ、全体的に上昇を続ける株式市場間の戦術的シフトは、根底にあるファクターの中で、急激なローテーションの影響を受けました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年9月11日～2021年9月10日)

当ファンドは、運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は設定しておりません。

分配金

(2020年9月11日～2021年9月10日)

当期の分配金は、長期的な投資信託財産の成長を追求する観点から無分配とさせていただきます。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第2期
	2020年9月11日～ 2021年9月10日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,014

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

大多数の投資家にとって極めて重要な問題は、インフレの上昇が一時的なものなのか、それとも永続的なものなのかということです。新型コロナウイルスのデルタ型変異株はオープニングプロセスを妨害し、今のところ、前者の支持に傾いています。私たちの今後の1つの定数はボラティリティであり、マイナス金利、市場セグメント間の歴史的に広い評価格差、および熱狂的な投機集団に対して構造的な調整が必要となっています。その結果、新しい情報に直面し古くなったコンセンサスに投資家がしがみつくダイナミクスを予想しています。そこではコンセンサスが変化したときにのみ取引が積み上がります。それらの市場条件は、より柔軟な権限をもつ運用者に有利になると私たちは信じています。さらに、2020年3月に見られたように、市場のインフラストラクチャは脆弱であり、レバレッジとリスクが不明であるため、流動性の高い上場先物契約のみによるエクスポージャーは、予想外のドローダウンやリーマンのようなカウンターパーティの問題などに巻き込まれるリスクを最小限に抑えます。今後の私たちの目標はヘッジファンドの多様なポートフォリオの手数料控除前リターンを忠実に提供し、既知のファットテール・リスクを最小限に抑えながら、投資家へのアルファを提供することを目指します。成功するには、これがトップのパフォーマンスをあげる最も予測可能で効果的な手法と信じています。

お知らせ

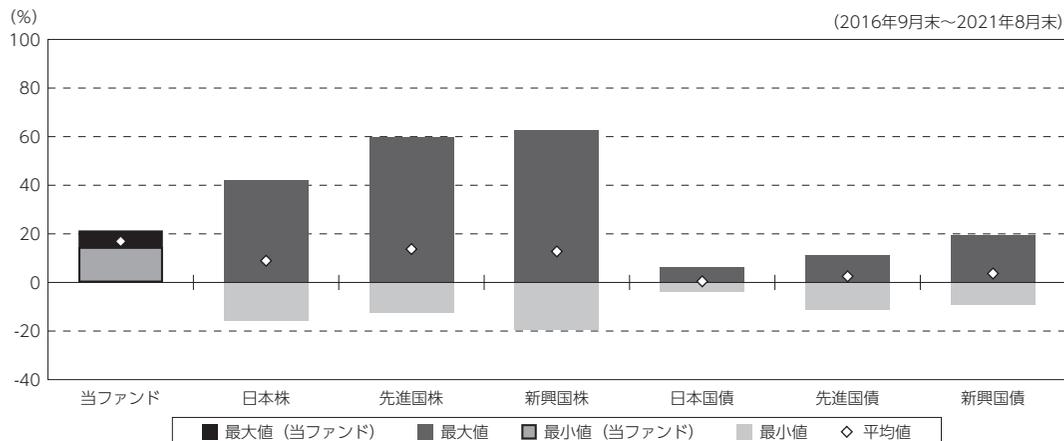
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	原則として、無期限です。(設定日：2020年6月19日)
運用方針	主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ、長期的に安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	ケイマン諸島籍の外国投資法人「DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ」円建て投資信託証券（運用：ダイナミック・ベータ・インベストメンツ・エルエルシー）」ならびに国内上場投信「NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信」を主要投資対象とします。
運用方法	主として米国・欧州の上場先物市場とETF（上場投資信託証券）に実質的な投資を行い、ヘッジファンドリサーチ社（HFR）が公表する預かり資産上位50社で構成されるヘッジファンド・ポートフォリオのパフォーマンスならびにマネージド・フューチャーズ業界を代表する上位20社のCTAポートフォリオのパフォーマンスの複製を目指した運用を行います。
分配方針	毎年9月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき収益分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	21.4	42.1	59.8	62.7	6.2	11.4	19.3
最小値	14.6	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 4.0	△ 11.4	△ 9.4
平均値	16.9	8.9	13.7	12.8	0.4	2.5	3.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年9月から2021年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2021年6月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

※詳細は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2021年9月10日現在)

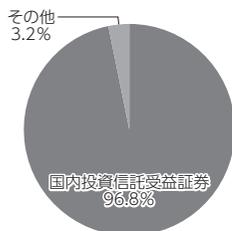
○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
	%
DBI リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド・JPY クラス A シェアーズ	96.8
NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信	0.0
組入銘柄数	2銘柄

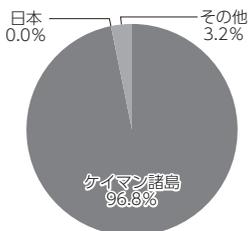
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

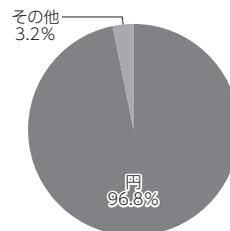
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券及び国内投資証券には外国籍(邦貨建)の証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第2期末
	2021年9月10日
純資産総額	6,392,707,686円
受益権総口数	5,320,796,220口
1万口当たり基準価額	12,015円

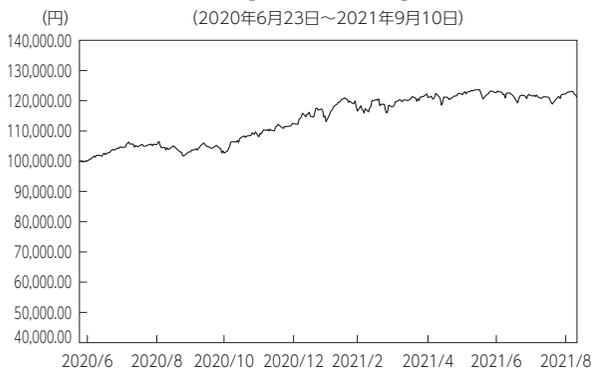
(注) 期中における追加設定元本額は2,835,139,295円、同解約元本額は811,980,715円です。

組入上位ファンドの概要

DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ

【基準価額の推移】

(2020年6月23日～2021年9月10日)



【1万口当たりの費用明細】

(2020年6月23日～2021年9月10日)

1万口当たりの費用明細に該当する情報を取得できないため、掲載しておりません。

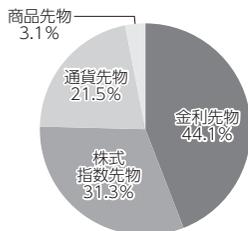
【組入上位10銘柄】

	銘柄名	比率
1	Euro Dollars	27.3%
2	Dollar Index	13.4%
3	US Treasury Bond	9.7%
4	E Mini MSCI EAFE	6.9%
5	E Mini MSCI EM	6.7%
6	E Mini Nasdaq	5.1%
7	US Ultra Treasury Bond	4.8%
8	Mini MidCap	4.6%
9	E Mini Russell	4.5%
10	Japanese Yen CME	4.1%
組入銘柄数		17銘柄

(注) 比率は、2021年3月31日時点のグロス・エクスポージャー合計額に対する個別銘柄のグロス・エクスポージャーの割合です。

(注) 円クラスの為替ヘッジ分のエクスポージャーを除いています。

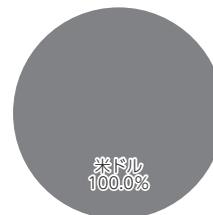
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



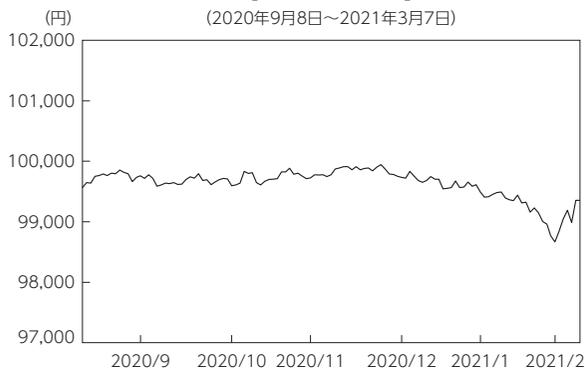
(注) 比率は、2021年3月31日時点のグロス・エクスポージャー合計額に対する資産別先物のグロス・エクスポージャーの割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信

【基準価額の推移】

(2020年9月8日～2021年3月7日)



【100口当たりの費用明細】

(2020年9月8日～2021年3月7日)

当該期間の100口当たりの費用明細については
開示されていないため、掲載しておりません。

以下は「国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド」の決算日時点の内容です。

【組入上位10銘柄】

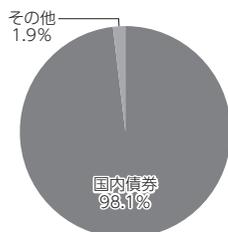
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率%
1	国庫債券 利付(5年)第130回	国債証券	円	日本	1.1
2	国庫債券 利付(5年)第129回	国債証券	円	日本	1.0
3	国庫債券 利付(10年)第334回	国債証券	円	日本	1.0
4	国庫債券 利付(5年)第133回	国債証券	円	日本	0.9
5	国庫債券 利付(10年)第341回	国債証券	円	日本	0.9
6	国庫債券 利付(5年)第138回	国債証券	円	日本	0.9
7	国庫債券 利付(10年)第350回	国債証券	円	日本	0.9
8	国庫債券 利付(10年)第344回	国債証券	円	日本	0.9
9	国庫債券 利付(10年)第351回	国債証券	円	日本	0.8
10	国庫債券 利付(10年)第332回	国債証券	円	日本	0.8
	組入銘柄数		1,075銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

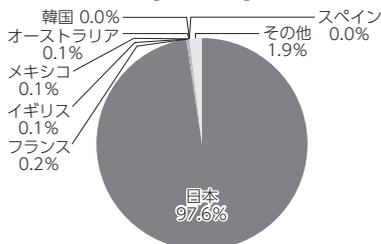
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

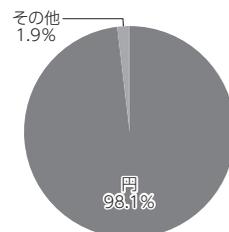
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。